

VEMP は可逆性のものもあると推測された。内耳性難聴症例は VEMP の結果と初診時聴力の関係に有意差を認めた。VEMP 異常例に聴力改善が困難な傾向が見られた。つまり、VEMP は前庭障害を有する急性内耳性難聴の予後推定検査として有用と考えられた。

P3-42.

網膜静脈閉塞症と頸動脈病変との関係

(霞ヶ浦・眼科)

○松島 千景、岩崎 琢也

(八王子・眼科)

若林 美宏

(老年病学)

岩本 俊彦

【目的】 網膜静脈閉塞症 (RVO) と頸動脈病変の関係を検討する。

【方法】 平成 12 年 10 月から平成 15 年 12 月までの期間に、東京医大病院眼科を受診した RVO のうち、頸動脈検査を施行可能であった 57 例 58 眼で、年齢は 51 歳から 88 歳 (平均 70.1 歳) であった。網膜中心静脈閉塞症 (CRVO) が 39 例 40 眼、網膜静脈分枝閉塞症 (BRVO) が 18 例 18 眼であり、観察期間は 6 ヶ月から 28 ヶ月 (平均 14 ヶ月) であった。超音波診断装置を用いて頸動脈病変の検索を行った。結果: CRVO の 39 例中 19 例 (48.7%)、BRVO の 18 例中 4 例 (22.2%) に頸動脈病変が認められた。CRVO において、視力 0.8 以上の良好な症例は、頸動脈病変のない群では 6 眼であるのに対し、頸動脈病変のある群ではなかった ($p < 0.05$)。蛍光眼底造影所見は、頸動脈病変のある群は虚血症が 15 眼 (79.0%) で、頸動脈病変のない群は虚血症が 8 眼 (40.0%) であり、頸動脈病変のある群では有意に虚血症が多かった ($p < 0.01$)。結論: 頸動脈病変の存在が CRVO の発症及び、予後に少なからず関係していることが考えられた。

P3-43.

M 蛋白欠損麻疹ウイルス増殖能の検討

(大学院単位取得・小児科学)

○長尾 竜兵

(小児科学)

河島 尚志、武隈 孝治、星加 明德

(北里生命科学研究所ウイルス感染制御 1)

中山 哲夫

【目的】 M 蛋白は麻疹ウイルスの粒子内膜を裏打ちし、ウイルスの出芽の際に F 蛋白との会合を助ける働きを有する。

interaction の障害によって粒子形成ができない事が分かっており、M-F interaction の障害の原因としては M 蛋白の U-C transition で変異が非常に多い事が知られている。

今回、M 蛋白を欠損した組み換え麻疹ウイルスを複製し、そのウイルス増殖能を検討した。

【対象と方法】 材料は SSPE75、ZH、AIK-C 株、細胞は Vero、B95a 細胞を用いた。

既に SSPE 75 株の M 蛋白に Start codon が欠落し、ZH 株の M 蛋白では 22 番目のアミノ酸部位に Early stop codon を認めており、N-P Junction に GFP を組み込んだ、全長麻疹 AIK-C ウイルス cDNA の M 蛋白領域を SSPE2 株の M 蛋白遺伝子と組み換え、M 蛋白欠損感染性麻疹ウイルスを回収し、ウイルス増殖能を検討した。

【結果】【考察】 ① M 蛋白の monoclonal 抗体を用いた蛍光抗体法で、組み替え麻疹ウイルス感染細胞での、M 蛋白の発現は認められなかった。

② B95a 細胞において、AIK-C と M 蛋白欠損麻疹ウイルスの感染効率、感染価の違いは認めなかった。

一方、Vero 細胞では M 蛋白欠損麻疹ウイルスのウイルス液の接種での感染効率は非常に悪く、感染細胞の接種も AIK-C と比較すると感染効率、感染価の低下を認めた。

この事より M 蛋白の欠損によって、B95a 細胞ではウイルス粒子による細胞への感染は行われるが、Vero 細胞ではウイルス粒子による細胞への感染は成立せず、cell to cell infection でのみ感染が成立している事が分かった。